

2014年4月

発行所*COCO湘南

〒252-0804 藤沢市湘南台7-32-2

Tel:0466-46-4976

Fax:0466-42-5767

発行者*西條節子

特定非営利活動法人COCO湘南・会報



コミュニティー

コーポラティブ

COCO-Community地域社会との関わり、Cooperative共同して生活してゆく、の意味

えんの森から

暮らしネット・えんは、埼玉県新座市で「高齢になっても地域で暮らし続けるために」を掲げて在宅支援を中心に活動するNPO。グループリビングは6番目の事業だ。ケアマネジャー、訪問介護、認知症デイサービス、グループホーム、小規模多機能型介護、と揃っているから、手厚い介護は可能。だけれど、見学者に「ここは何をしてもらえるの？」と尋ねられると「何もしません。必要なことがあれば相談ください」と答えることにしている。グループリビング建設の準備委員会から係わって入居した方が6名いるので、『自立と共生の住まい』が染み付いている。「何でもしてあげます」とは言えない。

開設から2年半、入居者同士で背中の中の湿布を替えたり、DVDを借りてきて往年の名画を一緒に見たり、ちょっと支えあう『共生』の関係が育ってきている。

えんの代表を降りたらわたしもここの住人になろうと思う。雑木林に面した南向きの部屋で、紅茶を飲みながら音楽聴いて本を読む。ああ、いつその日が来るのかしら？



NPO暮らしネット・えん
代表理事 小島美里

グループリビング運営協議会 会員募集中

我が国における豊かな高齢者居住の推進にご協力ください。

(連絡先) グループリビング運営協議会 事務局 土井原奈津江 Tel:0466-46-4976 Fax:0466-42-5767

Q1 最近幸せを感じたことはありますか。

COCO 湘南台

- COCOの暮らしは1人ではないこと、受け入れてくださることがあることを感じた
- 部屋の前に置くみかんに目白が来て戯れるもう十日間位。毎日。とても嬉しく、幸せ
- みんなの平穏な顔を見るとき
- 大勢で食卓を囲むこと
- 何事もなく、一日が終わった時



COCO ありま

- 健康であること
- 悪性の病のため、余命数ヶ月と聞かされていたのですが、現在まで命がつづいていること
- 無病息災



COCO たかくら

- 同じ建物に自分以外に9名の方が住んでいることです。日々安心して暮らすことが出来ます。夕食はおりーぶさんが作って下さり、用事で外出しても暖かい手作りの食事が待っていることです
- 健康で食べ物がおいしく自分が好きなこと（趣味等）が出来た時
- 息子、嫁、孫（女 大学2年生、男 中学3年生）が円満で健康であること
- 元気で仕事が出来ること
- 学生時代からの友がいること
- 20代のころから共に山歩きした友がいること
- 一緒に暮らしていた方の病気が快復したことが自分のことのように嬉しく小さな幸せを感じます。
- 人との出会いの楽しさ
- 外に友人ができたこと
- 入院先から帰って、ここに落ち着いたこと



Q2 今まで一番幸せだったことは何ですか

COCO 湘南台

- 信頼され、そのままの自分であること
- 数えきれないような幸せを得ています。一番など、数えられるものではありません
- 何かしら、難しい質問です。あれだったような～。これだったような～
- 大きな病気を知らずに家族のために働けた事です
- 学校を卒業して社会に出た時が一番幸せだった
- COCOに居る今日が幸せ
- 特にありません



COCO ありま

- ありまに入居が決まった時
- 家族そろって我が家で暮らしていたこと
- 不老長寿

COCO たかくら

- 保育士の資格を取得し、35年間保育園にいたこと
- 空襲、食糧難、敗戦等と社会的にはたいへん過酷な時代であったが、父母の庇護のもと安心して生活できた時代
- カトリックの信仰を得たこと
- 今の私に父が育て上げてくれたこと
- その時、その時の幸せ感はいつもある
- グループリビングに来て、毎日美味しい食事が食べられるようになったこと
- 何事もなく平和に暮らしていること
- 周りの方の心遣い、気づかい





Q3 もっと幸せになるためには、どうすればいいと思いますか。

COCO 湘南台



- 人を思いやり、感謝し、そして自分らしく残された人生を明るく暮らすこと
- 世界中が平和！みんなが幸せを感じられることが、私も幸せ。原発廃止すると幸せ
- 問題点を見つけること、そして…
- 今は自分のために時間を使い、直さなければいけない体のことを一番にし、その後花を育てて過ごす
- 健康であることに感謝し、有り難く、幸せであることを日々続けること
- 愛すること
- もっと自由にみんなが話せるといいと思います

COCO ありま



- 相田みつをの言葉より、「しあわせはいつも自分のところが決める」
- 私はたった数ヶ月の命と言われ今もって生きていられる、こんな幸せはあるでしょうか。これ以上の欲は出さずに幸せに生きていきたいと思います
- 突然死

COCO たかくら



- 神様を信じ日々の生活を過ごすこと
- 生きがいがある仕事、趣味等を持ち活動し続けること
- 健康を維持し、自分の考えに従い行動できる体力と活動能力を持つこと
- 自分が謙虚になること
- いつも気持ちを外に向けて、いろんなことに興味を持って生きていきたい
- 病を得て初めてわかったことは健康に勝る幸せはないこと
- 今以上に幸せになることは考えたことはないが、目の前にある現状を維持していく事が大切と考えている
- 政府を含め、人々に高齢者に対して、もっと思いやりを持ってもらえること
- 今の私のままで十分です

節子の部屋

女の平和

NPO法人COCO湘南
理事長

西條 節子



かつて読んで笑いながら共感した本から生涯の影響をうけている。それはギリシャ神話のアリストパネスが書いているギリシャ神話集の中の一つ「女の平和」と言う戯曲である。

その中の1つ。夫たちが戦争をしたがる、行きたがる、兵士になりたがる。戦争を阻止しようと女たちは木の下に集って、考えた。「そうよ。そうよ。ウン！」と、宣言を出した。

その宣言は「どうぞ戦士になりたい人は、この城壁から出て行きなさい。再びここに戻れないよう城壁の扉を閉めて、戦いの好きな夫たちを戻さない」。女たちはその中で平和な暮らしをすすめようと相談して……。ヤッター！！

これなんだ。女が賢く強く生きる。子供も守れる。こんな日本になりたいよ。



NPO法人COCO湘南の概要

- 活動の目的** ▶ COCO湘南は、高齢者のためのバリアフリー・グループリビングや高齢者地域活動センターの運営とその関連事業を通じて、高齢者の健康的で文化的な生活を支援し、明るい地域社会づくりに貢献することを目的とします。
- 活動の種類** ▶ COCO湘南は、目的を達成するために、①福祉の増進を図る活動 ②社会教育の推進を図る活動 ③まちづくりの推進を図る活動等を行います。
- 事業の種類** ▶ COCO湘南は、①高齢者バリアフリー・グループリビングを開設し、運営する事業 ②高齢者への家事援助、介助並びに介護サービスの事業 ③高齢者のための生涯学習、リクリエーションの事業 ④高齢者の地域連帯を促進し、「自立と共生」を支援する事業を行います。
- 事務局** ▶ 住所：藤沢市湘南台 7-32-2 中野 満 電話：0466-46-4976 Fax：0466-42-5767
メール：coco-shonan@jcom.home.ne.jp HP アドレス：<http://www.coco-shonan.jp/>
* 定例見学会は第一日曜日から第一土曜日に変更になりました。



“生きる証の詩” 俳句

移ろいゆく季節の美しさの中で無数に輝く星たち、野辺に咲く花、鳥のさえずり、虫の声、せせらぎの音、そして日々の暮らしの中から生まれ出る喜びや哀しみを掬い^{すく}とって、世界一短い五・七・五の言葉で詠う、それが俳句なのです。五・七・五の十七文字の中に四季を表す言葉「季語」を一つ入れて自分の言葉で見たもの感じた事をリズムにのせて表現します。詠い手の心が言葉に乗った時には読み手にも共感してもらうことが出来、喜びが二倍三倍にもなっています。

俳句をすることによって日々の生活に彩りが出、自分自身をも豊かに成長させていくことが出来るのです。俳句はまぎれもなく“生きる証の詩”なのです。はじめてみませんか？

～NPO会員の募集～きっと人それぞれに出来る大切な一歩があるはず！

COCO湘南の活動にいろいろなかたちでのご参加とご支援をお待ちしています。

●会員になってくださる方

正会員：個人入会金 ¥5,000 (年会費 1口 ¥5,000)
団体入会金 ¥10,000(年会費 1口 ¥10,000)

賛助会員：個人年会費 ¥2,000 (入会金不用)
団体年会費 ¥5,000 (入会金不用)

●ご寄付くださる方

COCO湘南の活動の費用など、資金面等で
応援して下さる方

★特典 ①会報の送付
②サロンコンサートなど行事の案内
③ゲストルームの利用

COCOありま入居者募集中！

問合せ先 TEL 0466-46-4976 (井野元)

高齢者グループリビング普及活動 2014年1月～3月

2月1日 COCO湘南台で見学会を開催しました。西條理事長、中野満、井野元美奈子、亀井里江子が対応しました。20人の参加

者がありました。

3月2日 日本大学生産工学研究科の学生2人が調査のためCOCO湘南台に來訪しました。中野

満、土井原奈津江、亀井里江子が対応しました。

編集後記

芸術文化を読みながら、登別にある「たすけ愛の家」の居住者のことを思いだした。その方は20代の頃俳句をしたことがあり興味を持ったが、その後機会がなかった。90歳近くになって「たすけ愛の家」に入居した時、俳句をしたいと希望し、理事長に俳句教室を開いてもらった。熱心に俳句に励み「おーいお茶」の俳句コンクールで1度目は審査員特別賞を受賞した。2度目は病院のベッドのなかで受賞したことを聞き、翌日亡くなられた。高齢になっても、また亡くなる直前まで好きなことに励めることはとても幸せなことだと思った。(な)

編集者＊西條節子
大江守之
熊澤淑子
竹内碩子
青木静恵
土井原奈津江